



▲代表して誓いの言葉を述べる宮園悠也さん

柳川の将来を担う若者に期待

共同入社・入店式

柳川商工会議所と柳川市商工会は4月19日、共同入社・入店式を柳川商工会館で行いました。市内の23事業所から43人の新社会人が参加。古賀克巳副会頭は新社会人に「東日本大震災で大変な時期ですが、皆さんの若いエネルギーに期待します」と激励しました。式の後、新社会人は20日までの2日間、社会人として必要な、言葉づかいや電話の受け方などのビジネスマナーの研修を受けました。

今年は連休まで楽しめそうです

中山の大藤の開花は1週間の遅れ

中山大藤まつりが4月15日に始まりました。今年は気温の低い日が続いたため、フジの開花も1週間以上の遅れ。開会式では、フジの管理をしている中山大藤保存会の新開成美会長らが、根元に日本酒を注ぎ祭り期間中の安全と、美しい花が咲くことを祈願。この後あいさつをした新開成美会長は、「訪れた人から心も温かくなったといわれるよう、道に迷った人がいたら親切に道案内をするなど、心遣いをお願いします」と、地元の人たちに呼びかけました。



フジの根元に日本酒を注ぐ新開成美会長ら関係者

市民のひろば

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています

神社の前で豆力士が奉納相撲

龍神宮すもう大会



▲豆力士たちが元気に相撲をとった

むつごろうランドそばの龍神宮で4月16日、両開小学校の児童142人による奉納相撲が開かれました。この催しは大正14年に干拓工事の成功を記念して始められました。以来毎年4月15日に児童が堤防のそばに祭られている龍神宮の前で相撲を奉納しています。今年は雨のため順延して16日に行われました。

学年別で行われる奉納相撲に保護者や地域住民が多く詰めかけ、少し肌寒い風が吹く中で元気よく相撲をとっている豆力士たちに大きな声援を送っていました。

現場から学んだ改善点を意見発表

第34回福岡県消防職員意見発表会

住民に消防や救急のことについて理解を深めてもらおうと4月8日、県消防職員意見発表会が水の郷で行われました。発表会には県内の消防本部の中から22人の消防職員が参加。現職の消防士や救急救命士が、火災や救急の現場での活動を通じて、感じたことや改善に向けた提案などを、5分の持ち時間内にまとめて発表しました。柳川消防本部からは西田富士男消防士長が「意識と心」と題し、救命講習の充実による救命率の向上を訴えました。



柳川市消防本部から出場した西田富士男消防士長

どきどきの学校生活スタート

市内小中学校で入学式

4月8日に市内の小中学校で、11日には中学校で入学式が行われました。今年の新入生は、小学校で593人、中学校で654人でした。

中島小学校には37人の新1年生が入学。野片博之校長が「ご入学おめでとうございます」と言うと、子どもたちは大きな声で「ありがとうございます」と答えていました。その後、6年生が1年間の小学校の行事を劇にして説明。新1年生は6年生が演じる劇を、目を輝かせて楽しそうに見入っていました。



▲「なが入ってるかなー」封筒の中をのぞきこむ新1年生

水も人も
キラリ

川柳

今月の入選作品・課題「水」

水辺から目覚めし春の城下町

森フチエ(弥四郎町)

未だ嘗て起ったことがないことを「未曾有」という。未曾有の「一度」といわれる。人間にとって「未曾有」の大震災でも46億年もの地球のものが多かった。春の城下町の何と平穏で美しいことが。流青

- つらい事水に流してさあ前へ
- 大震災命をつなぐ水明り
- 発展の裏で静かに水濁る
- 方円に馴染む私は水瓶座
- 雨あがりあの子と遊ぶ水たまり
- 散りてなおい水を彩る花茂
- 一口の水で潤うわが命
- 椿落つ水面に余韻残しつゝ
- 水ぬるみ新制服の親子連れ
- 苦難越え命をつなぐ給水車
- 大水害悪魔の舌はなめつくし
- 濁り水幾多の命うばい去り
- 諍いも水に流して花の下
- 水平をきっちり合わせ家が建つ
- あのうわさ水に流そう春だから
- 羊水は胎児の泳ぐ命綱
- 園庭の泣く児もまじる水遊び
- 水少し濁らせ父は遠い人
- ときに澄みときには濁る人と水
- 湖に寝そべり空を見たふたり

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。6月の課題は「帰る」です。入選作品は6月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスマまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係(☎77・8425、FAX74・5520)へ、5月15日(※必着)までにお送りください。

ふるさとへ帰るかさぶた取れるまで

流青